

交換留学帰国報告書

記入月日: 平成 30 年 7 月 10 日

氏 名: 葛西 優花

留学時所属 & 学年: 国際地域学部3年

留学先大学	Romanian-American University
留学先国	ルーマニア
留学期間	1 学期間
留学開始一終了日	2018 年 2 月 23 日 - 2018 年 6 月 30 日

報告書上での氏名公開について（どちらかに○をつけてください。）

帰国報告書 : 公開を 希望します ・ 希望しません

月例報告書 : 公開を 希望します ・ 希望しません

【留学前: 留学に至った経緯や留学準備について】

1. 交換留学を希望した動機について教えてください。

今まで夏休みや春休みを通して海外プログラムに参加してきましたが、それを通してより長い期間を使って海外で語学ではなく専門科目を学んでみたいと思ったからです。福井大学国際地域学部では学びきれないような専門的な学習が海外の大学では学ぶことが出来るので、1学期間だけでも海外の大学で学び、現地で生活することで異文化に触れたいと考えました。

2. 留学準備を始めた時期はいつ頃ですか。何から準備を始めたかについても教えてください。

留学先に提出する書類などは 3 か月前から始めました。スーツケースなど持ち物の準備を始めたのは渡航の前日ですが、買い物などを 1 週間前に済ませておいたのであとは詰めるだけだったので焦ることはありませんでした。また、前日に国際学生証を発行したのですが、これは特に必要なかった(現地で 1 度も使わなかった)ので、どうしても心配な方以外は発行しなくて良いと思います。

3. 留学先を決めた経緯について教えてください。また、派遣先の大学や現地情報についてどのように情報収集を行いましたか。

福井大学の申し込み締め切り日になんとなく大学のホームページで派遣先の大学の写真などを見ていて偶然ルーマニア・アメリカ大学に目が留まり、そこから調べてみるととても興味深い大学だということが分かり、締め切り時間ギリギリで変更し、決定しました。ルーマニアはまだ

日本では全然馴染みのない国で、行き先をルーマニアに決めたにも関わらず、「ルーマニアってどこ？ルーマニアってどんな国？」という状態でした。しかし、だからこそ交換留学を通して自分が今まで全く知らなかった国に行ってみたいと思ったので、何も知らない、情報の少ないという不安はありましたが、行き先をルーマニアに決めました。また、ルーマニア・アメリカ大学にはビジネスを学べる学部があったこともあり、ルーマニアという国を知るため、ビジネスを学ぶためにこの大学へ留学することを決めました。大学のホームページにほとんど情報が載っていませんでした。ルーマニア語が読めなかったりしたので、情報については英語で記載された大学発行の留学ガイドを読んでいただけでした。（のちに現地で留学していた他大学からの日本人学生と連絡を取り始め、ルーマニアに関しての情報を教えてもらいました。）

4. 留学に向けての語学試験対策、各種語学能力試験などの受験回数について教えてください。

TOEFL ITPしか受けていませんが、530点を取るまでに6回ほど受けました。そのあと550を目指して2回ほど受けましたが、結局550点には到達しませんでした。語学試験対策として、当時は数少ないTOEFL ITPの参考書をできるだけ探して、時間のある限り図書館やカフェなどでひたすら勉強していました。

5. 留学準備を進める際に役に立ったことについて教えてください。

（例：助言教員、国際課、留学経験者からのアドバイス、大学情報ウェブ、留学オアシスなど）

派遣先大学が発行している留学ガイドを何度も読んだり、インターネットでルーマニア（主に治安）について調べたりしていました。日本にとってルーマニアは情報量が少ない国なので、留学ガイドは本当に役立ったと思います。

6. 渡航前の履修登録や単位認定に関して、苦労したことやアドバイスはありますか。

渡航前では授業の一覧を見ることができたので、実際の曜日や時間などの情報がなく、どれを履修しよう、という見通しが全く立たなかったことに苦労しました。また、「とりあえず履修したいと思っている科目をリストアップして」と言われたものが現地に行ったらすべて履修登録されていたりして、渡航後にアレンジしなければならなかったのも少し苦労しました。

【留学中：大学生活や日常生活について】

A. 大学生活

1. 大学の校風や雰囲気はどうでしたか。

想像していたよりもこじんまりとしていていましたが、自由な雰囲気でした。

2. 大学構内の設備(ネット環境、学習支援、スポーツ施設等)について教えてください。

インターネットは、5GのフリーWi-Fiがあったので大学内では快適に使えました。私自身は利用しませんでした。大学の地下にスポーツジムがあったようです。学習室というものはなく、寮でルームシェアをしていた私にとっては勉強できるスペースの確保は少し難しかったです。

3. 参加していたサークルや部活はありますか。部員の数や活動内容、イベントなどについて詳しく教えてください。

サークルや部活には所属していませんでしたが、大学内にあるルーマニア日本語研究センターに所属して、授業がないときはほとんどこのセンターで過ごしていました。

B. 授業や勉強

1. 留学先で履修した科目

No.	科目名	担当教員名	時間数/週	単位数	クラス内の人数	授業内容、課題(予習・復習など)
1	Business Communication in English	Elena Museanu	1.5H	3	5~30	ビジネス英語の教科書を使用
2	Financial Accounting	Ionut Lungu	6H	4	10~30	予習復習として演習
3	Marketing Policies and Strategies	Costel Negricea	6H	5	10~30	セミナー形式で発言が多い授業だった
4	Trade Policy	Alexandru Butiseaca	6H	6	10~30	セミナー形式で発言が多い授業だった

2. 授業を受けるにあたって心掛けていたこと、努力や工夫をしたことはありますか。

専門用語の理解、授業の音声録音、インターネットや電子辞書の活用などをして、語学面でも知識面でも分からない部分が無いように努力しました。本当に分からない部分だけにマーカーを引いたり付箋を貼ったりなどをして、次の日には復習をしてテストでは必ず答えられるようにしていました。

3. 学習面で困ったことや、その解決方法について教えてください。

ヨーロッパならではかもしれませんが、Erasmusの影響で様々な国からの学生が多いです。彼らは様々なバックグラウンドを持っている人たちばかりで、その分授業や学習に対する態度や考え方が様々でした。また、彼らも英語を母国語としない人たちが多かったです。そのため授業中でもとにかくうるさくて先生の言っていることが分からなかったり、発言を聞いていても英語なのに訛りや発音の違いがあって彼らの意見を理解することが出来なかったりして少し苦労し

ました。ですがそれは彼らが私たち日本人に対しても同じことを思っていたようで、お互い顔を見合わせながら何度も言いなおしたり、発音しやすい、聞きやすい単語で言い換えたりなどをして意思疎通をはかっていました。この1学期間を通して、ネイティブでない、様々なアクセントやイントネーションを持った国の人たちと英語で話す難しさと充実感、楽しさなどを感じました。

4. 授業スタイルはどのようなものでしたか(講義聴講、ディスカッション等)。また、それに対してどのような印象を持ちましたか。

単位数が大きい科目は主に講義聴講とディスカッションが週に3時間ずつありました。そのため、1つの科目で週に6時間ほど授業がありました。講義聴講とディスカッションでは、同じ科目であっても担当の先生が違い、授業の雰囲気なども変わりました。講義聴講では主に担当の先生が作ったパワーポイントを見ながら進め、教科書はほとんど使いません。また、ノートなどにメモを取ることもなく、学生が各自ノートパソコンを持ってきて先生からもらったパワーポイントのファイルに書き足すなどしていました。私は日本でやってきた通り初めはノートを購入してメモを取っていましたが、手書きでは追いつけない部分があつたので、途中からはパソコンもノートも持ち込まずひたすら聞くことに集中して、分からない部分はパワーポイントをプリントした紙に書き込んでいました。ディスカッションでは、とにかく日本人以外の学生の発言の多さに圧倒されました。アジア人も、中東から来ている学生も、ヨーロッパ人も、とにかく日本人以外は発言が多かったです。しかし、多くの外国人の先生や学生は日本という国を特別視していることに気がきました。すごく日本について私たちに聞いてきました。そのため、発言せざるを得なかったのが、自然とディスカッションにも参加できました。

5. お薦めの教員や授業などがありましたら教えてください。

Financial Accounting がお薦めです。会計学に関する知識は皆無だったので初めて授業を受けたときは大変でしたが、自分自身で専門用語などは勉強しました。また、担当の先生は大学で1番厳しい先生だと噂されているくらいですが、その分しっかり学べて知識は他のどの科目よりも身に付けられたと思います。

C. 居住環境や日常生活

1. 居住場所について教えてください。

形態	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他()
部屋人数	(3)人部屋
寮・アパート名	不明
家賃に含まれた費用	<input checked="" type="checkbox"/> 光熱費 <input checked="" type="checkbox"/> 水道代 <input type="checkbox"/> インターネット代 <input type="checkbox"/> 食費 <input type="checkbox"/> その他()

ネット環境	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
室内設備	<input checked="" type="checkbox"/> ベッド <input checked="" type="checkbox"/> 机 <input checked="" type="checkbox"/> 椅子 <input checked="" type="checkbox"/> クローゼット <input type="checkbox"/> 電話 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> シャワー・浴室 <input type="checkbox"/> キッチン <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房機器 <input type="checkbox"/> その他（冷房設備はなく、暖房のみ）
共用設備	（洗濯室、コンビニなど自由に記入してください。） なし

2. 大学、住居周辺の施設について教えてください。

（銀行、現地のスーパー、日本食レストランやスーパーの有無など）

大学および寮周辺は小さいスーパーがひとつあっただけで、基本的にはどこへ行くにもバスやメトロ、タクシーを利用しないとどこにも行けませんでした。不便といえば不便でしたが、自然が多くのだかな街だったし、友達とバスやメトロに乗ってお買い物に行くのは楽しかったです。銀行は遅く開いて早く閉まりますが、寮内にありました。24 時間使える ATM もあったので、お金は基本的に寮内で引き出していました。日本食は特に恋しかったわけではありませんが、ある日本食レストランのオーナーがルーマニア・アメリカ大学で週末日本語を教えていたこともあり、その方とお話させていただく際に何度か訪れました。タクシーで行っていましたが、タクシーの料金は安いので頻繁にタクシーを使ってもあまりお金のことは気になりませんでした。日本食のスーパーに関しては、ブカレスト内に KJ センターという韓国と日本の食材を売るスーパーが 2 店舗ありました。しかしほとんど韓国のものばかりで、ブカレストではあまり日本のものは手に入らないと捉えたほうが良さそうです。

3. 現地銀行開設の有無や、現金入手方法、クレジットカードの利用頻度などについて教えてください。また、留学費用や現地での支出の管理はどのようにしていましたか。

私が給付していただいていた奨学金は日本からのものなので現地で口座を開設する必要はありませんでした。Erasmus から奨学金をもらう場合は開設する必要があるそうです。現金は先述の通り大学寮内で下ろしていました。ブカレストは小さな個人経営のお店以外はほとんどどこでもカードが主流なので、スーパーやカフェ、レストラン等に行った時はほぼ毎回クレジットカードを使っていました。生活費の管理は、奨学金の月 7 万円内でやりくりするようにしていたので、毎月固定の寮費を差し引いて食費や遊びのお金を確保していました。最初の 1 ヶ月でだいたい自分の生活にどれくらいお金がかかるか、また、現地通貨の感覚なども分かってくるので、あまりシビアになりすぎず、大きい額を使ったときだけ記録しておくようにしました。ルーマニアは食費が特に安かったのでキッチンが無いとはいえそこまで食費に神経質にならずに済みました。

4. 渡航直後に必要だったものや、あって便利だったものを教えてください。また留学期間を通して、日本から持参すべきだったもの、持参しなくてもよかったと思うものはありますか。

歯ブラシは半年間の留学でも1年間の留学でも、期間中必要な本数だけ持っていくべきです。海外の歯ブラシはほとんどの確率で日本の倍ほどの大きさがあり、また、ブラシの毛も硬くて磨きづらいです。毎日使う物なので、ストレスがたまらないよう自分に合ったものを持つてくのは本当に大切だと気付かされるものです。また、直接肌につける化粧水など基礎化粧品も同様に、多少荷物になっても持っていくべきです。

さらに、自炊できる人もできない人も、箸とドレッシングは欠かせません。箸は海外でも売っているように思えて、意外と売っていませんでした。何を食べるときでもスプーンかフォークだったので、箸があると何かと便利です。ドレッシングも、自分の好きなものを1つ持っていただけで全然違います。海外(ルーマニアだけなのかもしれませんが)のドレッシングは高いうえにあまり美味しくなくて、野菜不足だと感じるが多かったです。シャンプーやトリートメントはいくらでも現地で調達できるので、代わりにドレッシングを持っていくことを強くお勧めします。もし自炊できるようであれば、本だしだけでも持っていくと重宝します。

シャンプーやトリートメントは持っていなくても大丈夫ですが、特にヨーロッパへ留学される方には小さい(100ml以下)トラベル用のシャンプーとトリートメント、もしくは現地で詰めればいいので100均などで100ml以下のボトルと多めのジップロックもお勧めします。週末にリュック1つで旅行することが1度はあると思うので、その際あるといちいち大きいボトルを旅行先で買わなくても済みます。(ドミトリーなどの節約旅行の場合ですが)

物価がそこまで高くないのなら、ドライヤーも現地で調達してもいいと思います。壊れる可能性があるうえにかさばるので、ドライヤーを入れる場所があるなら代わりに基礎化粧品や生理用品などを入れることをお勧めします。それから、部屋で履こうと思ってクロックスを持っていったのですが、かさばるだけなのでこれも必要ないです。現地で安いビーチサンダルを履くほうが現地人っぽいですし、何よりクロックスは珍しすぎて浮いて見えます。

あとは大抵現地でなんでも揃うので、行く国の物価にもよりますが、日本から持っていかなければならないものはほとんどありません。歯ブラシ、基礎化粧品、生理用品、ドレッシング、本だし、箸くらいでしょうか。文房具も日本から持っていくと重いので、上記の液体を優先して持っていきましょう。これらは帰国の際持って帰ることのない液体類なので、帰りはその分留学中に使用したノートや教科書、その他必要な書類など、逆にどうしても日本へ持ち帰る必要があるものなどやお土産を入れるスペースになります。何度も繰り返しますが、歯ブラシ、基礎化粧品、生理用品、ドレッシング、本だし、箸です。余裕のある人はチェキを持っていくと現地人に喜ばれます。

5. 留学にかかる必要経費について教えてください。(現地通貨＝レイ)(例:USドル)

内容	金額	内容	金額
渡航費	17万円(往復)	食費	4万円(1ヵ月)
保険代	67210円	家賃	1万3000円(1ヵ月)
予防接種・ビザ代	0円	教科書代	0円
交際費(外食等)	1万円(1ヶ月)	その他	6000～1万円(洋服)

合計: 約50万円

6. 文化・習慣の違いなどで気をつけていたことやアドバイス(服装・マナーなど)があれば教えてください。

治安は良いほうでしたが、肌の露出が多い服は性犯罪に巻き込まれないようにしました。ルーマニアをインターネットで調べると狂犬病について出てきますが、ほとんどいないので予防接種は必要なさそうです。基本的にはブカレストでは日本で過ごしているのと同じように過ごして問題ないと思います。

D. 健康管理

1. 周辺の病院や学内での医療サービスについて教えてください。

大学の近くに大きな病院があるそうです。学内での医療サービスは特に聞いたことがありませんが、街にはよく薬局やドラッグストアがありました。

2. 留学中に通院や入院はしましたか。その際にかかった医療費はいくらでしたか。

特にありません。

3. 渡航前に必要だった健康診断や予防接種、日本から持参した薬などはありますか。

先述したとおり、予防接種は必要ありません。健康診断書も、一応持っていきましたが一度も必要になることはありませんでした。風邪薬や頭痛腹痛などの薬を持っていきましたが、これもありがたいことに一度も使うことなく済みました。

【留学後：成果や今後の進路について】

1. 交換留学の成果について教えてください。

留学前に設定した目標が達成できたか/留学先での学業や生活を通して学んだこと/留学前に期待した以上に達成できたこととその理由/留学中、特に努力したことや心掛けたこと/留学を終えて変わったことなど

留学前に設定した目標は良い成績で単位を取る、ひとり旅をする、友達を作って勉強以外の生活も充実させるなどがありましたが、すべて達成できたように思えます。

ルーマニア・アメリカ大学では期末試験を受ける前に中間試験の成績を8割以上の得点で合格すると、そのあとの期末試験が免除されるシステムになっていました。逆にその中間試験で8割未満になってしまうと、夏休みがどんどん減って日本へ帰るのが予定していた留学期間より遅くなる可能性もあったくらいでした。いつ日本へ帰国する、というのが重要だったわけではなく、むしろせつかく海外の大学で学ぶことが出来るなら良い成績を収めたいと思っていたので、普段から学習内容を全て理解できるように予習復習に取り組みました。結果としてはすべて8割または9割以上を得点することができて期末試験が免除され、早い段階で単位の修得が出来たのでその面では気持ちが楽になりました。

また、今まで旅行、とくに海外旅行となると必ず誰かと一緒に行っていたのですが、今回ヨーロッパに来ているということもあって、旅行を一から一人で計画、予約し、一人で行って帰ってくるという経験をしてみたいと思い、ポーランドへ旅行しました。アウシュビッツ強制収容所の見学もできて、一人は少し寂しくも感じましたがなかなかいい経験、勉強になったと思います。

友達を作って生活を充実させる、というのも目標でしたが、これは人数に関しても一人一人の付き合いの深さに関しても想像以上でした。ルーマニア人の彼らと毎日一緒に過ごし、コミュニケーションを取ったことで語学力も上がったかもしれませんが、彼らの物事の考え方や捉え方、学ぶ姿勢などに刺激されて私自身もいろいろなことに対して意欲的になったと思います。これは友達がいないかならえなかったことだと強く感じています。

留学中に特に意識していたことは、分かりやすい日本語を使うということです。授業がない時間帯に私がよく言っていた日本語研究センターでは、日本語を学んでいるルーマニア人がたくさんいました。彼らにとって私は貴重なネイティブスピーカーだったので、私はよく彼らと日本語を話したり、英語で文法を教えたりしていました。その際心掛けるようにしていたのは、彼ら一人一人の日本語のレベルに合わせて使う言葉や話題を変えていたことです。あまり難しすぎても、せつかく日本語を話す機会なのに何を話していいか分からなくなって結局英語で話したり、難しすぎる熟語やオノマトペを使ったりすることは避けました。日本語のレベルがどれくらいかを見極めるには一人ひとりのコミュニケーションが欠かせませんでしたが、これを繰り返していくうちにただ日本語を教えていただけでなく、どんどん仲のいい友達になることが出来ました。

留学を終えて変わったことは、オープンマインドになったことです。留学する前までは特に仲のいい友達としかほとんど一緒に過ごしてこなかったのですが、留学後は国籍関係なく誰ともフランクに話せるようになり、世界が広がったように感じます。また、自分の思った通りに、自

分のやりたいことをやりたいようにする自由さも知りました。今まではひたすら「やらなければならない」感を持ってまるで義務のように何でもこなしてきましたが、今では英語をもっと勉強したい、フランス語を英語と同じように使えるようになりたい、会計学を勉強してみたい、など向上心を持って過ごせるようになりました。ルーマニア人の友達からの刺激ではないかと思います。

2. 留学中に達成が出来なかったことやその理由、反省点があれば教えてください。

ルーマニア語を学びたかったのですが、希望者が集まらなかったためルーマニア語の授業が開講されませんでした。ルーマニア人の友達からいくつか言葉を教えてもらいましたが、せっかく1学期間滞在していたのもう少し話せるようになるまで勉強したかったと少し後悔しています。

3. 今後の目標や挑戦したいこと、進路や就職活動について教えてください。

留学が終わると英語の授業がほぼなく、第二外国語も終わってしまったので語学と疎遠になりがちです。しかし、今まで大学でも留学先でも英語を使い、第二外国語としてフランス語を学んできたので、今後は TOEIC とフランス語検定で結果を残すことを目標にしながら両方を学んでいきたいと思っています。就職活動に関しては、まだ自分の中で業界などを決めることが出来ていないため、夏のインターンシップに行くよりは自分がしたい勉強をするほうが良いと考え、どのような業界が自分に向いているかこの夏しっかりと考えながら就職活動に備えたいと思っています。

4. あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージをお願いします。

この国、この大学を選んで間違いだと思ったことは一度もありませんでした。たった1学期間の交換留学だったからかもしれませんが、ホームシック等に陥らなかったのは留学先での周りの環境の良さだったのではないかと思うほどです。それほどまでに、ルーマニア人の人々は温かい人たちばかりです。寒すぎる上に暑すぎる、寒暖差が激しくて過ごしにくいといえば過ごしにくいかもしれないルーマニアですが、それすら私は大好きになりました。東ヨーロッパと聞くと少し敬遠されがちかもしれませんが、こんなに良い国に出会えるとは思っていませんでした。それくらいルーマニアに行かれることを強くお勧めします。

ルーマニアという国は、2007年にEUに入ったばかりで、まだまだこれから発展していくという感じの国です。街の人には素朴さが残っていて、首都であるブカレストであっても都会の冷たさはありません。もちろん日本よりは悪いかもしれませんが、治安もルーマニアだから、東ヨーロッパだから、と特別怖がる必要はありません。基本的な対策をしていれば、安全に過ごせます。よく中国人だと間違えられますが、ルーマニアは親日の国です。日本人だと言えば至れり尽くせりでもてなしがすごいです。物価も安く、特に食費や交通費が安いので、ブカレストの郊外でキッチンがないルーマニア・アメリカ大学でしたが快適に過ごせていました。ルーマニア産のチーズやワイン、伝統料理、チョコレートなど食べ物もそれなりに美味しく、また、ヨーロッパ各国

からの食べ物もたくさんあるので毎回の食事は何を食べようか楽しみになるはずです。移動に関しては、基本的にはバスやメロを使用します。どちらも距離は関係なく1回30円～60円程度で安いので便利です。長距離列車は国内旅行に行くときなどに使えますが、これは学生証を見せると料金が無料になるのでこちらもルーマニア国内で長距離移動をする際にはお勧めします。また、日本に比べてタクシーの料金も安く、便利な配車アプリもあるので是非使ってみてください。アプリを使えばルーマニア語が分からなくても目的地まで行けますし、ぼったくられることも無く安全です。

ブカレストには旧市街地があり、オールドタウンと呼ばれています。オールドタウンは石畳になっており中世ヨーロッパの雰囲気がまだ残っている素敵な場所です。クラブやレストランなどが数多くあるので、現地の友達と是非訪れてみてください。レストランに関しては、ルーマニアの伝統料理を提供しているレストランはもちろん、様々な国の料理のレストランがあるのでいろいろな食べ物が楽しめると思います。キッチンがなく自炊できないルーマニア・アメリカ大学の学生にとってレストランは欠かせません！

次に、ルーマニア・アメリカ大学に関して。私は International Business 学部に所属していましたが、留学中の時間のほとんどを Centrul de Studii Romano-Japoneze という、通称日本語研究センターで過ごしていました。きっとこれからルーマニア・アメリカ大学に留学される皆さんもここで過ごす時間は多くなると思います。センターの所長さんを始め、このセンターにいる学生はすごく日本に興味があり、中には何度も日本や福井大学へ訪れたことがある学生もいます。とにかく日本のことが大好きなため、私たち日本人学生のことをすごく大切に扱ってくれます。ここで出来た友達は本当に大切な人たちばかりで、これからはずっと連絡を取り合い、また会いに行こうと思うくらいの仲です。是非ルーマニア・アメリカ大学へ留学される方は、ここで日本語を教える手伝いを少ししながら、たくさんの友達を作ってください。私がこの大学へ留学してよかったと思う最大の理由はこの日本語研究センターです。私を含めた3人の学生が福井大学からの初めての留学生でしたが、向こうの大学からの留学生とこちらからの留学生がもっと増やして、両大学の間を私たち留学生でより良いものにできたらなと思っています。

私立大学というのもあって、寮は他大学に比べてとても綺麗だったと思います。部屋にはシャワーとトイレがついていて、3～4人でルームシェアをします。ルームメイトは日本人とは限らず多国籍なので異文化理解が生活の基盤になってきます。何度も書きますがキッチンはなかったし、冷蔵庫もルームメイトとお金を出し合って購入しないといけませんでした。あまり高くないので冷蔵庫は買ってよかったと思っています。日本語研究センターにいるルーマニア人の学生たちも寮に住んでいることがあるので、彼らとご飯を食べに行ったり、お互いの部屋で一緒に過ごしたりするのもすごく楽しいです。

たくさん書きましたが、どうかこれからルーマニア・アメリカ大学に留学する福井大学のみなさんが有意義な留学生活を送れますように、少しでも力になれば幸いです。ここまで読んでいただき本当にありがとうございました！